

## 第4回境港市民交流センター（仮称）管理運営計画検討委員会 議事録（要旨）

日 時：平成30年9月3日（月）午後1時30分～3時00分

場 所：境港商工会議所 2階 第1会議室

### 出席者 【委員会委員】

野田委員長、池淵（美津子）副委員長、池淵（朗拓）委員、松本委員、足立委員、新和委員、湯越委員、山本委員、安田委員、山田委員  
（欠席：増谷委員、三好委員）

### 【アドバイザー】

小林アドバイザー（欠席：田中アドバイザー）

### 【事務局】

松本教育長、黒崎生涯学習課長、北野生涯学習課課長補佐、園山建築営繕課課長補佐、浜田生涯学習課課長補佐兼生涯学習係長、竹内生涯学習課文化体育係長、

### < 次 第 >

#### 1. 開 会

#### 2. 議事

（1）視察報告（山口情報芸術センター（YCAM））

（2）境港市民交流センター（仮称）管理運営計画の基本方針（案）の修正案について

（3）境港市民交流センター（仮称）管理運営計画の事業計画（案）について

#### 3. その他

#### 4. 閉会

<会議録（要旨）>

◆次第1は省略

◆次第2 議事について

（1）視察報告（山口情報芸術センター（YCAM））

○事務局から説明（視察報告書①及び②）

（以下主な意見等 ◇：質問・意見等、⇒：回答内容）

<委員長>

今、事務局の方で資料を基に説明がありましたが、委員の皆さんでも参加されますので、今日ご参加の委員の方で、視察に参加された方に感想、印象に残った点を、自由に結構ですので、お願いします。

◇（委員）

図書館に日々出入する方を通じて、次の施設に取り込んでいく、案内するという方法が非常に参考になりました。ただ、色んな実験とかをやっておられたのですが、本市では参考にはならないと思いました。

◇（委員）

印象に残ったのは、自分たちでやりたいこと、アートだったり、教育だったり、一部スペースがあって体験が出来たり、そういったことも図書館と繋げてあるということ。あと吹き抜けのテラスがあったり、図書館から流れてくる人が他の施設にも行って、本を読む人だけではなくて、お子さんとお母さんが一緒に談笑するスペースであったり、そういう工夫がされていてよかったのと、景観がすごく良くて、前の方が芝生でちょっと外に出て遊べるような雰囲気だったり。あとは横にスタバがあったのが、とっても集客に効果があるのかなと思いました。

◇（委員）

全体的に、すごく建物自身がゆったりしているというイメージがありました。それと事業内容が、私たちが目指しているのとはちょっと違う感じで進まれていると思いました。それと全体的にさっきも言われましたが、場所がすごくいいと思いました。公園とか広々とした感じで、この施設があるということが一番のメリットではないかと感じました。

◇（委員長）

事業内容が違うというのはその通りで、あそこは最初からメディアアーツという日本でもほとんど前例がないような分野の先駆的な施設なので、どちらかというとも美術系の方になりますが、施設的にはホールがいくつかあって運営をしているので、そこ

は共通性があるので、そこはちょっと分けてご理解いただければと思います。

◇（委員）

私も一番印象に残ったのが、建物の前の芝生の広場で、シートを敷いて親御さんと子どもさんが一緒に談笑されているところもありました。環境のすごく素晴らしいところだなと思いました。境港市でも芝生の広場を活用した一体感を持った施設にしたということだったので、参考になるなと思いました。特に芝生の上に何かあるというわけではないですが、大変広くて、気持ちのいい空間だなと思いました。図書館についてもすごくゆったりしていて、広くて、居心地のいいところだなと感じました。

◇（委員長）

それでは私の方から気付いたことを。一番気にして質問させていただいたことは、2つの施設の管理運営がバラバラになっているのではないかと考えていたのですが、やっぱりバラバラでした。でいろいろ聞いたのですが、管理運営者が違うので、これ決定的だったと思います。ですから境港の場合、どう考えるかというのが非常に重要だなと。なぜかという、実態は図書館に来る人が多いです。その人たちが何かやっていると思って見に行く感じですね。逆に言うとホールで催し物が、例えば夜終わって出てきた人が、図書館に行こうとしても図書館は閉まっています。その事をどういう風に考えていくのかを1つ聞いたかったのですが、案の定って言うか予想通り、あまり上手く行ってなくて、写真で言いますと、3ページにホワイエがありますけれど、左手が図書館で右手がワイカムです。このホワイエで、お客さんが混じって交流するような設計になっていますが、なかなかそうならないって聞いています。だからその辺りを参考にしたいと思います。それからさっき公園の話も委員からありましたけれど、「コロガル公園」と言って、子どもたちがここでくつろぐのがすごく人気だそうで、参考にしていきたいと思いました。隣にケーブルテレビの会社があって、NHKもあるのですが、そこも連携が取れてなくて、もうちょっとやりたいというのはありましたけれど、それも思ったほど進んでいかない。もう1つここも大事なのがレストランの話です。最初、レストランが入っていたのですが、条例とか縛りがあって、上手く回っていかなかったようです。お客さんはそこそこ入っていたみたいですが、結局撤退して、条例も廃止したようです。私の持論ですが、やはり催し物がやってないとき、図書館が閉まっても、カフェだけは人が入っている、やっているという風にした方がいいなと思うから、そこは十分、民間業者のことを踏まえた制度設計をした方がいいように思いました。図書館は意外と普通の図書館という感じで、色々設計上工夫をされているなと思いましたけれど、ガラスで本が焼けるって、出来た後怒られたみたいに言っていました。それでは視察に参加されなかった委員の方々から、質問とか意見とか要望とか、何でも結構ですからぜひご発言を。

◇（委員）

7ページのアンケート調査の事を聞かれたときに、「そういうアンケートをとられたのではないかと想像します。」という返事が返ってきています。計画して実行するにあたる歴史と言いますか、現在運営している方が把握していないということが、やはりあるようです。そういう点は、誰か来たとしてもですし、一番に市民に対して説明できる体制というのは常に今からでも整えておく必要があると思います。もう1点は、館長さんについての質問をしているところですが、「センターの館長と図書館の館長といます」と書いてありまして、日頃どのような連携を持って館長さんは動いているのか、センター内の連携がどういう風になっているのかということも気になりましたので、館長を決めたりする段階において、そういうことも運営の段階で考えていかなければいけないかなと、この報告を読むだけです、本当はどうかわかりませんが、ちょっと感じたことを今、話させていただきました。

◇（委員長）

今の委員のご意見、2つともごもつともというか私も同感です。1点目の作るときの経過についてですが、これは設置者と運営者が、どこでもそうですが違います。運営が始まると設置者は全部移動していなくなり、運営者は運営の事しか考えませんから、過去の事は余程トラブルが起こったら調べますけれど、普通、それから未来のことを考えていくんですね。そこがどこでも問題になるところなので、ぜひご指摘のようにわれわれとしてはきちんと運営者に引き継ぎながら、記録が残っていて聞かれたら答えられるようにすべきだと思います。それから2点目の館長ですけれども、先程私も申し上げましたけれども、これ胆だと思って言ったら、案の定バラバラだったので、本当は館長1人にした方がいいと思います。だけどこれは制度上の問題もあります。図書館法があって、所管が違ふとかですね、そういう話に役所の中でなりますから、そこをどう乗り越えられるのかという議論をここでもやったらいいと思います。大きい課題だと思います。ぜひアイデアをお出しいただいて。それぞれ館長を置くと勿体ないと思います。

◇（委員）

ええ、そんなに人材はたくさんいませんので。

◇（委員長）

ただ、僕も図書館をよく知っていますけど、図書館は、ある種制度がばっちりできていて運営していますから、ある意味ではしっかりしていて、ある意味では融通が利かないんですよ。ただそれを今、図書館は、賑わいの核施設だということで、大分見直しが始まっていて、蔦屋なんかも入ってきたりして、まあ批判も大きいですが、これまでの図書館のイメージが変わろうとしているので、そういう時期に作る

わけですから、ぜひ新しい図書館の姿をここで実現したいなど。繰り返しになりますけれど、図書館のお客さんの方が多いですし、ベースになるので、そこをうまくつなげていくようにしていったらいいんじゃないかなと思いました。はい、ほかにございますか。

◇（委員）

私が気になったのは、カフェが入っていないかという質問について、レストランが20時で閉まるので、デメリットがあって、途中でなくなったということですが、カフェですけど、果たしてそれが続くのかどうかということが1番心配なんじゃないかと思います。カフェをした場合に、どれくらいの方が利用される可能性があるのか。あと会議なんかでそのカフェからとるということもあるかもしれません。実際米子は、図書館の横にカフェが出来て、私も数回利用しましたが、あそこは図書館と美術館があって、結構美術館はグループで来られて、あとで美術館の横のカフェで相談されたりだとか、感想を言われてる方が多いんですけど、この場合は、図書館とあとは利用団体ということなので、カフェの存続というのは結構シミュレーションして何人くらい利用されるかというのを検討されないと、民間の方を入れた場合には、かなりその辺、採算ラインということを考えないといけないんじゃないかなと感じたところです。

◇（委員長）

全くその通りですね。先ほどちょっと申しましたが、極端に言うと全く図書館もホールも業がないけど、カフェだけ利用する人を掴む必要があります。でもそういった発想は行政はないんですよ。要するに文化団体が何人来てって足し算で終わるので、プラスアルファで作っていくことが必要で、例えば、5年くらい前ですが、県立博物館のレストランが空いたままでした。同じようなことで出て行っちゃった。儲からないから。で今度、カフェ・ダールミュゼって入ったら、かなり営業努力をして、大変おいしいものが出るって、県庁職員が昼食を食べに行ったりしています。ですからそういう努力をして、評判がよくなればお客さんも付いてくるし、またそういう人たちが逆に図書館に入ってきたりするから、そういう意味でぜひここは、日頃ホールとか行かない人たちも、入りやすいところだから。問題は8時に閉めたら、8時ってまだホールで拍手しています。終わったらアンコールとかで。で閉まっていたら行こうと思っても行けないですよ。なのでそこら辺を考えていかなきゃいけないなど、私も強く思うところです。本当にレストランまでやらなくてもいいと思います。サンドイッチとか飲み物くらいでいいと思うんですけどね。他にございますでしょうか。

◇（委員）

カフェがあった方が絶対いいと思います。これからの図書館は滞在型を目指してい

きますし、私なんか調査をするときに一日中、資料とにらめっこしている場合、お昼食べないといけないなと思っても、図書館から出ないといけないとその時間が勿体なくて、そんなときに軽食でもあればとってもいいなと思うんですが、その場合、やっぱり魅力的なカフェであることが前提で、グルメ雑誌に載るような何かおいしいものが一つ、何か例えば、高校生が考えたこれがあるとかいうような、何かストーリー性のあるようなメニューが一つ目玉にあると、境港の図書館のカフェがとってもおいしいんだ、行ってみようよと言って、それが目的で来られる人も増えるんじゃないかなと思いますし、高校生なんかちょっとお腹が減ったねという場合も気軽に取れるような、買えるようなものもあってもいいかな、例えば鬼太郎パンも一緒に置いておくとか。軽食というかちょっとお腹に入るようなものも併設して買えるようにする。レストランまではいらないですけども、家族みんなで1日過ごして、お昼お腹すいたね、ちょっとカフェ行ってお腹に入れようとか、そんな風に気軽に来てもらえるような場所になればいいなと思います。ですから目玉になるメニューを何とか、ストーリー性を持たせて作れるといいかなと思ってますけど。

◇（委員長）

最近、流行といたしますか、神田の本屋街で売り場にテーブルを置いて、コーヒーを飲ましている店もね。書架から取り出して、コーヒーを飲みながら読んでいて、汚すんじゃないかとかそういうのもあるんだけど、大分変わってきましたよね。他にございますか。

◇（委員）

ここは場所貸しをしているんですけど、他に比べて明らかに少ないというのは、最初の協議段階で実験性をメインにする建物にしたせいで、明らかに件数が少ないんでしょうか。

◇（委員長）

恐らくそうだと思います。私もできる経過をずっと同時代で知っていますけれど、メディアアートって何かというと先端的な科学技術を使った芸術表現なんですね。今、チームラボというのが一番有名なんですけど、今のところ余りポピュラーじゃないんですね。お客さんが、演劇とか映画とか音楽に比べると付き合っている人もほとんどいないというか。だから借りるってイメージがない、逆に言うと大学と連携して何か実験的なことをやりながらスキームを導入したいということは言っていて、そういうことは逆に出来るのかなと思うんですけど、だからこの場合、ワイカムについては、映画上映会とかはやっていますけど、そこら辺のメディアアーツの機能はちょっと特殊なところがあるので、参考にならないかなと思います。はい、他にございますでしょうか。

◇（委員）

小学生の子どもを持つ親として、質問なんですけれど、ワイカムに視察に行かれたのが平日の昼間ということで、子どもさんの利用というのはほぼほぼなかったとは思いますが、平均して平日は1,000人、休日は2,000人で、大体この中で、小学生のご利用は大体どれくらいなのか、そういうのがデータで出ているか確認したいと思います。やはり親としても施設を作るに当たり、子どもを連れていきたくなるような魅力ある施設、先程もありましたカフェにしてもですね、子どもの大好きなメニューとかあったら、子どもが進んで行きたがるようなところになるんじゃないかということで思いまして、そのようなことを聞いてみたいと思いました。

◇（委員長）

これ聞きましたでしょうか。

⇒（事務局）

先程の1,000、2,000人は図書館に来られる方ですけど、子どもがどれくらいかというところの割合まではちょっとお聞きしてないので、わかりませんが、平日で何もイベント的なものがなかったですけど、小さいお子さん連れのお母さん方っていうのはぼちぼちいらっしゃったんじゃないかなという風には感じました。小学生はまだ学校の時間帯だったのでいなかったです。

◇（委員長）

逆にワイカムの方は、自然系の博物館が持っているようなサンプルを持っていたり、実験装置を持っていたりして、子どもたちが体験型でできるようになっているので、学校でクラス単位で行くのは有りだなと思って、まあ来ているとは思いますが、ちょっと把握はしていませんけれど。逆に特徴が、そういうところではプラスになるところもあるのかなと思っています。他にございますでしょうか。図書館の話も大分出ましたので、アドバイザーからコメントがあれば。

◇（アドバイザー）

今のお話を聞いて図書館的にいうとすごく勿体ないなという感じがしています。というのが、図書館に来た人間が他のスペースに流れていくばかりではなくて、実は図書館的な戦略で行くと、他のイベントでたまたま来られた方を、いかに図書館に引っ張ってくるかということがすごく重要な視点で、図書館が固定客で決まってしまうたら、もうそれ以上の利用は増えない可能性があるわけで、その辺をいかに連携の中でやっていくかというのがすごく大事なんじゃないかなと。それには先ほどおっしゃいましたけど、図書館そのものが変わっていかないといけませんし、図書館職員の意識が変わっていかないといけません。やっぱり開館までのスケジュールの中で、そこを

どうやって仕組んでいくのか、或いは運営の中でそこをどう言い続けるのかとか、そういうことがすごい大事なのかなと思います。あと、先程、館長さんの話がありましたけれど、一つだけ事例で紹介しますと、塩尻の例があるんですけど、「えんぱーく」という複合施設の中に図書館が一つ入っています。その「えんぱーく」というのは、子ども支援とか高齢者支援とか、まちづくり、それから商工労働部門、そういうのが一つの「えんぱーく」という建物の中に入っているんですけども、その建物そのものが一つの部になっています。そのえんぱーく部の部長さんが市の職員としてきちんと位置付けされていて、その中に入っている6つの部門だったですか、そこが初めから連携するという大前提で施設を動かしているっていうような例がありますので、縦割りを簡単に壊せるとはなかなか思わないので、難しさもあると思うんですが、一つ例としてそういうものがあるということでご紹介させていただきます。

◇（委員長）

えんぱーくには、図書館のほかにどういう機能が入っているんですか。

◇（アドバイザー）

行政が入っています。子育て部門とか高齢者とか、そういう人の交流を仕組むところとかそういうのが入っています。

◇（委員長）

今、2点ありました。図書館からホールだけでは勿体ない。ホールから、でもホールは大体催し物が、夜の場合は8時半とか、遅ければ9時。でも図書館は閉まっているので、逆に、図書館を10時まで開ける、或いは24時間開けるための工夫はないのかと。それは市では無理だったら、NPOがやったらいいんじゃないかと。NPOがやっている事例もありますので、ぜひそこはかなりウイング拡げて考えていいのかなと思いますけれど、ただ毎日ホールで催し物をやるわけじゃないですから、それは限られてますよね。ではどこら辺を想定するかというところで違ってくるかと思います。それから館長問題、これは大変大きいよね。これはさっきの論点とつながりますけど、どういう施設としてトータルに考えて、それを運営していくかという時に、館長が2人っていうのは、船頭が2人いる船みたいなものですから、そうじゃない方がいいかなと。でもそれは中々難しいから、どういう風に決めていくのか、考えるかということとつながるので、ぜひそのことも含めて、色々なアイデアとか事例とか共有しながら、やっていきたいと思っています。ありがとうございました。引き続き何かございましたら。よろしいでしょうか。また何か思い出したとかあれば後程戻ってまいりますので、2点目の議題ですけれど、管理運営計画の基本方針（案）の修正案について、事務局の方から。

(2) 境港市民交流センター（仮称）管理運営計画の基本方針（案）の修正案について

○事務局から説明（資料P 2～4）

（以下主な意見等 ◇：質問・意見等、⇒：回答内容）

◇（委員長）

前回のここでの議論を反映する形で、結構あちこち変わったと思います。いかがでしょうか。ちょっと気になるところ、或はこれよかったんじゃないかというご意見でも結構ですから、今時点で。

◇（委員）

とても分かりやすい言葉で、変わってよかったと思います。この内容以外にもう一つ付け加えたらどうかなというものを、ちょっと私以前から思っていて、経済界でも、環日本海とか中海圏域の連携とか言っているところなんです、文化としてもやはり何かそういう他地域とか、他の施設、山陰と言いますか、そういうところとの連携とか交流とかいうのを促進しながら、やはり境港市だけの内側の話ではなくて、そういう広い視野でもって、このホールというものがもっと役立ってもらえるような、そういうなんて言うかアプローチに対する何か言葉を少し、ここに入れといた方が、情報の収集というのに入るかもしれませんが、それよりももうちょっと積極的な関わり方というか、そういう広い視野でもって市民だけのものではない、ここら辺の全体の宝として、このホールを運営していくんだというような、何かそういうものがもう一つ加わってもらおうと更にいいかなと、自分で思うところなんです。

◇（委員長）

今のご意見、恐らく一般的な文化の創造だ、継承だということも含むんだけど、もう少し境港の特色を地域的な言葉を使って出すということですよ。あるいは北東アジアとか日本海とか、わからないんだけどそういうことで他と差を付けていくという感じのご意見かと思えますけれど。

⇒（事務局）

先程の委員の提案は、方針の1、4どちらに、何かそういった言葉を加えた方がいいというようなご指摘でしょうか。

◇（委員）

1にも入る部分もあるし、4という部分もあるという感じなんです、どういう風に具体的に言葉をしたらいいのかわちょっと申し上げにくいですが、積極的に他地域との連携を図っていくとか、何かそういう内向きだけではなくて、地域全体として

発展していきたいというようなことを、今現在、いろいろなところと連携はしているんですけども、魅力を発信、基本方針1の中に入れてもいいです。

⇒（事務局）

はい、わかりました。どういった形がいいのか事務局の方で考えたいと思います。

◇（委員長）

例えば世界に開かれた境港として何とかとかですね、例えば基本方針4に付け加えるのであれば世界に開かれた港町境港だし。そんな感じも今ちょっと思ったんですけども。ではこれ、検討していきたいということで、皆さんの方からいい言葉があればお示しいただければと思います。結構、このページの上の方に来るからカッコいい言葉があればいいですよ。

⇒（事務局）

補足しますと、先程來說明してきた修正案については、第2回の委員会の時に皆さんから出された意見をある程度忠実にといいますか、反映させていただきました。例えば「学びの場」を加えてほしいとか、イベント事がないときでも立ち寄れるようにとか、表現が硬いというところは、事務局なりに柔らかくしたつもりですけど、まだまだ硬いというご意見をあろうかと思いますが、その辺りをご指摘していただければと思います。

◇（委員長）

はい、ということでいかがでしょう。ほんとにだいぶ良くなったと思いますが。

◇（委員）

2点お願いします。先ほどの委員の意見も似ているなと思ったんですが、基本方針2にプラス外国人、今環日本海交流で色々な国の人も来られますし、そういう外国から来る人たち、旅先ではまず図書館に行って情報を集めるとかいうようなことも聞きますし、出来たら、ここにも外国の方が住んでいらっしゃるし、いろいろな交流とかもありますし、「外国人」という言葉もあった方が境港らしいかなと思います。それが1点目と、もう1点は基本方針6ですけども、ちょっと文が強すぎるかなと思ったんですが、1行目の「自衛隊との連携をいっそう強化し」という表現よりも「さらに深め」と言った方が、同じ意味でもいいかなと思うんですけど、目的が「災害に強いまちづくりを推進するため」の自衛隊との交流促進だということをもっとしっかり前に出して、例えば「自衛隊活動の理解を広げる場の提供や市民と自衛隊員との交流を図る」とかに変えた方が、「いっそう強化し」とか「自衛隊活動を学ぶ」とかいうのがちょっと抵抗があったので、変えてみたのですが、またお願いします。

⇒（事務局）

はい、わかりました。まだまだ硬いしちょっと表現的に皆さんに受け入れにくいのかもかもしれないので、今、委員が言われたような形に直したいと思いますし、「外国人」は当然、入れて然るべきだと思います。

◇（委員長）

そこは検討していきます。他にございますか。

◇（委員）

基本方針3の「人材を育てる」ですけれど、文章があまりにも短いというのがちょっと。「次世代を担う人づくり」というのが、次世代の何を担うのかというのがこれは抜けている。要は今生まれている方は全員次世代を担うわけでありまして、次世代の何を担うのかという点が、これを読むと漠然としすぎているような感じがするんですよね。やっぱり施設の事業、福祉の事業もありますし、文化芸術もあるし、自衛隊との関係で災害に強いまちづくりということでボランティアの推進みたいなのもあるんですけれど、ここのへんがちょっと私としては。「事業や運営に参加・協力する機会を提供し、」その後何か1つの文章を入れてですね、だからどういったところの分野について境港市の未来を担うとかですね、やはりここは漠然としすぎている感じ、ちょっと焦点がぼけているような感じがちょっと若干したんで、ちょっと言わせてもらいました。何が正解かちょっとわかりませんが。

⇒（事務局）

はい、ちょっとそこは考えさせてください。

◇（委員長）

他にございますか。よろしいでしょうか。

◇（委員）

細かいことですが、基本方針2の「催し物がなくても立ち寄れる」という表現が、ちょっと基本方針に使う言葉としては何か。

◇（委員長）

では、「いつでも」という言葉にしては。

◇（委員）

「いつでも」でもいいですし、「日常的に」でもいいですし、いまいち表現方法が似合わないかなというのを感じましたので。細かいことですが。委員が言われた「障

がい者など」のところも私も同意見でしたので、言葉の使い方をよく考えてしていただければと思います。

⇒（事務局）

はい、そこは先ほどちょっと何個か出た表現で改めたいと思います。

◇（委員長）

繰り返しになりますけれど、ホールと図書館ができるというだけでなく、まちの1つの新しい賑わいの核ができるという風に考えたいし、そこがまちづくりに繋がっていくというような機能が、最終的には大事だなと思うので、催し物があるがなかろうが、図書館が閉まっていようが、何かここがちょっと気になるから行ってみようかとか、そこに行けば誰かと会ったとか、情報が入手できたとか、そういう場所として作っていくのがいいのかなと思っています。今のように、お気づきの点がもしあればご指摘ください。それでは次に進みますが、もしお気づきの点があればまた後程指摘追加してください。

（3）境港市民交流センター（仮称）管理運営計画の事業計画（案）について

○事務局から説明（資料P5）

（以下主な意見等 ◇：質問・意見等、⇒：回答内容）

◇（委員長）

確認ですが、事業計画に5本の柱がありますけど、最初の3つ「ホール」、「図書交流広場」、「会議室」までは施設だと思うんですけど、「福祉」、「交流・防災」はこういう施設ができるのですか。福祉のスペースとか。

⇒（事務局）

福祉に関しては、社会福祉協議会に入ってもらって、事務局が施設には入ります。

◇（委員長）

わかりました。場所としては会議室を使ったり、ホールを使ったりになると。

⇒（事務局）

あと防災の方も市の防災担当部署の事務室が入りますし、施設全体が避難所となる予定になっております。

◇（委員長）

左3つは場所を言っているんだけど、右の2つは機能ですよ。だからそれが交錯する形になるのかな。まだこれ、あくまで事務局が作って、提示しているものですから、あれが落ちている、名称が変だとか、これとこれ場所が違うんじゃないとか、お気づきの点があればおっしゃっていただければと思います。

◇（委員）

図書交流広場の主な事業の文言を考えられたのは、生涯学習課の方ですか。館長さんですか。

⇒（事務局）

事務局の方で考えました。まだ館長さんには見てもらっていません。

◇（委員）

これはとても大切な、また市民の方にも目が届く。多分、今までの境港の図書館の機能しかご存じない市民の方が、図書館はこんないろいろな機能があるんだということを知っていただく機会にもなると思うので、これはとっても大切だと思います。やっぱり図書館長さんとか、いろいろ相談してからじゃないと気軽にここは出せないじゃないかなと思います。例えば、最初の「図書の閲覧、貸出・返却サービスの充実」って普通図書館では当たり前なので、これまでいちいち出さなくてももっと大事なことを入れた方がいいんじゃないかなと思いましたが、3番目に「自衛隊・防災の関連資料の充実」と書いてありますが、まず「防災」が先に来ると思うんですね。防災拠点なので。防災・自衛隊の関連資料の「充実」じゃなくて「展示」でいいんじゃないかなと思いますし、それから地域の特性を活かした「企画展示」ではなくて、水産業とか妖怪とか海とかいろいろ境港らしさがたくさんあると思うんですけど、それは「展示」ではなくて「コーナー」、資料がたくさんあって、調査とか研究ができる場所になった方がいいと思うので、「展示」ではなく「資料の充実」がいいかなと思いますし、付け加えて「学校図書館支援」は外せませんし、新しい図書館が出来るまでに出来たらいいなと思っているのが、「移動図書館車」なんですけれども、遠いお年寄りとか小さいお子さんで中々図書館に行けない人たちに、移動図書館車って、そんなに専門の車でなくてもいいですから、何かトラックかバンでも、段ボールに本を入れて運べるような、そういう支援ができるといいかなと思います。今気が付いたことを言ったんですけど、やっぱり館長さんを入れてきちんと話をしないとダメじゃないかなと思います。

◇（委員長）

まだまだ精度が粗いんじゃないかというご指摘だったかと思うんですけど。他に

お気づきの点がございますか。例えばホールでもですね、演劇とかコンサートがあるんだけど、「映画」なんか書いてないし、ここに書いてないのが結構あると思うんですね。だからそこらへんがちょっと、「等」というのが入っていればいいんだけど、必ずしもそうじゃないから、そこは最終段階でいいですから、映画とか言葉を入れる方がいいと思うんですけれど、出来るだけ幅広く捉えていく必要があるかなと思っています。

#### ◇（委員）

ホールのところですが、自主事業というものもやはり現在もしております。自主事業の実行も入れといた方がいいのかなと思いました。それから学校支援というのも今、幼稚園から幼児からずっと関わってますし、そういう幅広い意味での学校支援という風な明記の仕方をされるといいかなという風に思います。

#### ◇（委員長）

事業も自主事業と貸館事業とあるので、ここで敢えて分けてないと思いますけれど、いずれそこら辺の考え方もどういう風にするのか議論していかないといけないところで、予算の範囲の中でということになりますけれど。他にございますか。例えば応援団というのは仮称ぐらいにしといてももらわないと、気が付いたらこの名前で印刷されたとなりますから、まだ名称などは今日、この段階で確定というのではなくて、機能として考えて、こういう機能がないじゃないかということを見ていただきたらと思います。今後の進め方ですけど、事業計画についてはそれなりに時間を設けてですね、もう少し、もう1段階、細かいところで議論をして、大体そんな格好で決まっていくのかなと思いますけれど、管理運営と事業と分かれるわけですけど、次は非常に細かくなっていきますから、現状がどうなっているのかということも踏まえて考える必要もありますし、その分析をして、ここを強化していこうとか、ここは整理統合だとかということも必要だと思いますので、そういった議論をこれからやっていきたいと思えますけれど、そのベースになる新しい市民交流センターの柱建てですね、これは今日のこういうことで議論をさせてもらっています。何かそれぞれの方で、お気づきのところがあれば、こういう活動やってるんだけど、ここに入れてもらった方がいいよねとか、お気づきの点があれば。大体よろしいですか。事業でもいくつか今意見が出されましたので、また事務局の方で検討していただきますけれども、また修正したものが次回提示されるということになります。もしご意見が他になければこれで終わりたいと思いますけれど。よろしいでしょうか。

#### ◇（委員）

ホールの中で、展示とかそういう関係のものが全然ないと思うんですけど、確かさっき文章の中にあったと思うんですが、展示関係が全然ないので、その辺りを入れ

たもらった方がいいと思います。

◇（委員長）

そうですね。作品展示とか。他にございますか。

◇（委員）

先程、山口県の例でもホールと図書館が連携していないっていうことであったんで、ここをどうやってつなげていくかということも、ここに盛り込んで書いていただいた方がいいのかなと思いました。

◇（委員長）

事業計画の上の基本方針になるかと思います。基本方針2の「常に賑わいを生む」とか、基本方針5の「誰もが使いやすい管理運営」とか、こういったところで文章の中に1つ、ホールと図書館の連携した運営とか、そういうことをぜひ入れるべきですね。文章でいいと思います。基本方針を増やす必要はないと思うんだけど。文章できちっと書いていただいて。これ眼目だと思います。ありがとうございます。はい、他にありますでしょうか。よろしいですか。アドバイザーの方から何かありますか。

◇（アドバイザー）

先程も意見が出てましたけれど、「学校図書館支援等」ということはぜひ入れていただきたいと思いますし、「等」の中にはぜひ高校も入れてもらいたいなど、地域の子どもたちが通っている、或いは地域に来て通っている子どもたちも一緒に支えてもらえるようなことを入れていただきたいなと思います。それから、これは図書館の仕事がこういうのがありますよというのが書いてあるんですが、サービス対象ごとにどういうサービスをするかということもあってもいいのかなと思ひまして、例えば障がい者に対してどういうサービスをしているのかとか、或いは先ほど外国人に対するサービス、今もありましたけれども、図書館の中でも多文化サービスといった表現で言ったりもしますが、外国の人達に対してどういったサービスをしていくのかとか、いろいろ情報弱者と言われる人たちに対してどういったサービスをしていくのかというところを具体的に書いていくのもありなのかなと思います。あと人の交流と言いますか、世代間交流みたいところが、この中のどこに入ってくるのかなと思ったんですけど、図書館でも、図書館の資料を通じて一緒に地域の事を学ぶとかですね、お年寄りから子どもまでと一緒に学んでいくというような、そういうことを仕組んでいけるので、多分、組織横断的にいろいろなところでいろいろなことができると思います。そういうのをどうやって表現していくのかなと少し感じたところです。あと、移動図書館車のことが出ていましたけれど、移動図書館車も1つのツールという具合に考えると、必要な情報を市内全体の隅々までどうやって届けていくのかという、物

流全体をどうやって考えるのかというものの中に、移動図書館車を位置づけて考えてもらった方がいいのかなと思いました。

◇（委員長）

はい、貴重な意見ですね。ぜひそこは検討して入れていきたいと思っています。はい、他によろしいですか。それでは議事の（3）は以上にします。3番目「その他」、この際何か委員の方々からご発言があれば、全体を通してでも結構ですし、何かありますでしょうか。

### ◆次第3 その他について

◇（委員）

設計図はもう変えることはできないですか。

⇒（事務局）

設計図を変えることはできないとはどういうことでしょうか。

◇（委員）

例えば駐輪場は15台しかないですよ。高校生とか中学生がすごく楽しみにしてて、多分、たくさんの中高生が自転車に乗ってきたり、ママチャリのお母さんだったりがあると思うんですよ。15台では少ないと思いますし、例えばたくさん自転車で来た人がどうするかというと、多分、入口近くに自転車を並べる人がたくさん出てくるのかもしれないなあと思ったりして、そうすると通行の邪魔になったりすると職員の方が自転車の整理をしたり、ここはだめですよという、余分な仕事が入ってくるんじゃないかなって思ったりして、駐輪場をなるべく入口の近く辺に何かもう少し多く設置していただくといいかなと思いました。それと児童図書コーナーに授乳室が置かれるんですけれども、そこでは子ども用のトイレは置かれませんか。

⇒（事務局）

子ども用のトイレはあります。

◇（委員）

わかりました。それと書庫スペースやボランティア室は、事務室の奥に廊下がありますが、そこからもドアがありますか。出来たら後ろの廊下からボランティア室や書庫スペースに入れるドアがあると便利かなと思ったんですけど。

⇒（事務局）

それはまた確認して、お答えさせてください。自転車については、駐輪場ということで15台ですけど、先ほど言われたみたいに要らない手間とかがかからないようなことも考えないといけない。例えば学校のイベントとかで自転車で来る生徒さんがたくさんあるようなときに、置いてもらうようなスペースを、普段は駐輪場じゃないけれど、イベントがあるときには自転車を置いてもらうスペースだよといったようなことも考えていきたいと思いますので、今は、現状15台ということで少ないと思われるかもしれませんが、止められるような手立てというか、そういったところはちょっと工夫してみたいと思います。

◇（委員）

それと駐車場も147台っては書いてあるんですが、色んなイベントがあったりとか、保健相談センターでもいろいろ健診とかもあり、そんなのも含めての147台なので、今でも用事で来ると空いている場所が少ないくらいなので、要るかなと思いました。

⇒（事務局）

駐車場については従来からずっと言われてまして、大体イベントがあるときは土日が主になってきますので、市役所の近隣のところを使ってもらおうというところでやっていただくしか、これ以上のスペースは中々確保できないのかなと思っています。増やす努力はしておりますけれども、ちょっと限界があるのかなとは思っています。以前の会議でも集客数の大体2割3割ぐらいが駐車スペースというところが大体多いところがありますので、バスを利用していただくとかお願いせざるを得ない状況もあるのかなと思っています。駐車スペースについては先ほど言ったように、今の職員駐車場とか、本当に大きなイベントの時は活用していただいて、駐車場として利用するという考えで従来から来ています。

◇（委員）

保健相談センターで健診とかがあるときは、平日が多いので、そういうときはどうかと、図書館とかに賑わいを創出するために気軽に寄っていただきねって言われてるけど、行っても駐車場がないとなると、何か矛盾してしまうと思います。以前提案したこともあるのですが、交通公園の半分でも、今ほとんど利用されていないので、そういうところも駐車場にできなくはないかなとは思ったりします。

◇（委員長）

はい、他にお気付きの点がありますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは事務局の方から何か。

・第5回の検討委員会について

○事務局から説明

◇（委員長）

今回は、10月の前半位だということで、9月の段階で日程調整に入りますので、一つよろしくをお願いします。他に特になければこれで閉じたいと思いますが、よろしいでしょうか。

◇（委員）

最近ですけど、石獅子が移動になったということで、新聞等に載って、今まで全く市民会館に関心がなかった人があの石獅子で、市民会館って壊されているのか言う人がありまして、その言葉にびっくりしたんですけれど、やはりそういうトピック、ちょっとしたことがあったときはぜひ、新聞とかテレビとか、ちっちゃなことでも大きく騒いで、宣伝してもらおうと、全く知らない市民にもちょっとずつでも宣伝できるのではないかなという風に思いますので、何かしらの機会にお願いしたいと思います。

⇒（事務局）

解体をちょうどやっているところが8月31日の日本海に出ていました。

◇（委員）

私たちは関心があるから常に見ますけど。

◇（委員長）

委員のおっしゃる通りで、行政の段取りとしては基本設計、実施設計、管理運営計画、事業計画が固まったら広報なんだけど、並行して広報していかないと、あれ無くなっちゃうんだと。逆に言うといいチャンスなので、今度新しいのできますよと早めに早めにPRしていけば応援団も形成されやすいのかなと思います。

⇒（事務局）

多分、以前も委員からこれ自体あまり知られてないじゃないかといったところがあったときに、施設が無くなったら、じゃあ、あとこれどうなるのというのは必然的にみなさんが思われるんじゃないかということをお話しさせてもらったことがありますけど、機会を捉えて広報には努めたいと思いますので、よろしくをお願いします。

◇（委員長）

はい、ありがとうございます。思わぬいい意見が市民から出てくることもあると思うので、ぜひそこは開かれた形でやったらいいのではないかと思います。それでは

他になければ今日の会議を閉じたいと思います。どうもみなさん、ありがとうございました。